

庄司智春

お笑いタレント



こだわって建てたマイホームが十周年。
家族が集まる素敵な場所になつたので、
家へのお礼も兼ねて、お祝いしたいです。

結婚当初の「すぐ離婚しそう」という評判を笑い話で受け流し、

今では芸能界きってのおしどり夫婦として知られる庄司智春さんと藤本美貴さん。

サラリーマン経験ののち、お笑いの道を目指したという苦労人の庄司さんは、

仕事はもちろん、家事や育児にも“マイペース”で取り組んでいます。

二人で建てた家へのこだわり、夫婦円満の秘訣など、語っていただきました。

Profile



庄司智春 (しょうじともはる)

1976年、東京都大田区生まれ。1995年、吉本総合芸能学院（NSC）東京校に入学。品川祐とともに「品川庄司」を結成し、ツッコミを担当。2002年に「第39回ゴールデン・アロー賞」芸能新人賞を受賞、M-1グランプリ2005年ではファイナリストになる。筋肉芸人としても知られ、現在はバラエティ番組を中心に活躍。妻はタレント・歌手の藤本美貴さん。夫妻でMCを務める『ミキティダイニング』(フジテレビジョン)が好評放送中。三児の父で、『イクメンオブザイヤー2013』を受賞。



入社3日目で挫折を味わい、ダメ元で芸人の道を目指す

お笑いに興味を持ったのは小学校のころ。バラエティ番組を見て、「お笑いをやってる人っておもしろいし、かっこいい！」と憧れています。でも、自分がなれるとは思えず、高校卒業後は普通に会社に就職しました。でも入社してみると、同期の四大卒の人たちがキラキラしていて、「俺たちがこの会社を支えていくぜ！」という感じで、もうすっかり気おされちゃって。「自分は今、端っこにいる。ここにいても多分、出世はできない」と思っちゃったんですよ。入社して3日目のことでした。だったら、小さいときから憧れていたお笑いの世界に飛び込んでみようと決意して、そこから、お笑いライブを見に行くようになりました。養成所があることも初めて知って、好きな芸人さんのいる吉本の養成所NSC（吉本総合芸能学院）に行きたいなあと思っていたら、1995年にNSC東京の一期生募集の広告が雑誌に出ていて、「よし、これだ！」と。さっそく応募して面接を受けて、無事、入学できました。今思うと、期待して入った会社で肩透かしを食らい、ネガティブな気持ちになつたことで、逆にダメ元で好きなことにチャレンジできたんだと思います。



明るくパワフルな女性、ミキティと結婚し、気づけば17年目になりました

妻のミキティ（藤本美貴さん）と結婚したのは2009年です。当時は“すぐ離婚しそうな夫婦 第2位”でした（笑）。芸人とアイドルの結婚なんて、どうせ続かないんでしょう、というのが世間の大半の意見。まあ仕方ないなとは思いました。あるテレビ局のプロデューサーさんは「3年続いたら、そのとき、ご祝儀を渡すよ」と言われ、結局ご祝儀はもらえずじまい（笑）。いろいろありましたけど、その都度、二人でおもしろがって笑っていましたね。気負わず、マイペースで過ごして、気づけばもう17年目です。

最近は「夫婦の円満の秘訣は？」って、よく聞かれま

す。仲がいいって思っていただけるのは本当にありがたいし、確かにめちゃめちゃ仲はいいです（笑）。でも、なんででしょうね。けんかもよくするし。ただ、なんでもよく話はします。ちょっとしたひずみを放つておくと、後に大きなズレになるので、お互に気づいたとき、すぐに話すんです。それと結局、彼女のキャラがいいんですね。明るいし、パワフルだし、タフだし、僕のことをちゃんと見ていてくれて、ときには甘えてくれたりもする。そういう部分が可愛いなと思えるんですよ…。いやあ、こういうところが円満の秘訣なんですかね（笑）。

うちの両親はザ・亭主関白スタイルで、父は本当に何もやらない人でした。それしか知らないから、結婚当初は女性が家のことを全部やるんだろうって思っていたんですが、母から「ミキちゃんも働くんだろうから、智春はお父さんみたいにふんぞり返っていないで、家事もしっかりやりなさいよ」と言わされたんです。確かにそうだよなと思いましたし、時代的にも“イクメン”が当たり前で、自然と家事や育児をやるようになりましたね。もし、母からの助言もなく、イクメンという風潮もなければ、ふんぞり返っている旦那になっていたのかも。考えたらゾッとなります（笑）。

今、おかげさまで3人の子どもに恵まれていますが、一番上が中学2年生の男の子で、彼には僕が洗い物や掃除をする姿を見せています。彼が将来結婚したときに「そういういえば、お父さんも家事をやってくれていたな」と思い出してくれればいいですね。特に助言はしないけど、彼は彼なりに考えて行動して、どこかのタイミングで「あのとき、お父さんはこういうことを言いたかったんだ」と分かってくれたらいいなと思っています。

子育ては難しいです。何が正解なのか、いつも手探りです。ただ、子どもたちを愛しているという気持ちに間違いがなければ、きっと伝わるとは思うので、核になる部分はプレゼンにやりたい。もちろん、親が間違えることもあるし、失敗することもある。そういうときはきちんと謝るし、大事なことはその場で全部伝えるようにしています。



焦らず探し続けた理想の家 今は家族が集う大事な場所です

マイホームについて考え始めたのは、入籍してすぐのことでした。いきなり彼女から「家どうする？」って言われたんですよ。それまで、家のことを話したことは一度もなかつたし、僕は特に何も考えていないかったんですが、そこから、二人で真剣に話すようになりました。とりあえず貯金をして資金を作りながら、マンションの内見に行ったり、土地を見に行ったり。選ぶ場所や物件で必要な金額は全然違うし、見れば見るほど夢は膨らむし、キリがない。結局、出した結論は「土地を買って家を建てよう。ただし、いつまでに探すかは決めず、いいものが見つかったら買おう」。まあ、“永遠の探し物”みたいな感じで、探すこと自体を楽しんだ感じです。

希望に沿った土地が見つかったのが10年前。長女が生まれたタイミングで、今の家を建てました。広さは4LDKです。2階の子ども部屋は広めにとって、パーテーションを入れて分けられるよう設計しています。ただ、今のところはみんな、気がつけば1階のリビングにいます。リビングはみんなで楽しい時間を過ごせるようにしたかったので、結構こだわり満載です。容積率としては3階建ても建てられたんですが、あえて2階建てにして、その代わり1階のリビングの天井を高めにして開放感を出しました。リビングの外には庭があって、大きな窓を

入れたので、リビングとの一体感が感じられて、高い天井と相まって圧迫感もなく、とても快適です。庭で遊ぶ子どもたちをリビングから見ながら、僕は筋トレをする。そんな時間を満喫しています。

最近、上の子がミキティより身長が高くなつて、成長ぶりを喜ぶと同時に、なんだか寂しい気持ちもあります。子どもたちはあつという間に大きくなつて、この家を巣立っていくんだ、そうしたら、ミキティと二人きりになるんだなあって。でも、それならそれで、家に手を加えて二人で住みやすくするのもいいなと、今は思っています。たとえば年を取ると階段がしんどくなるから簡易エレベーターを入れよう、とか、壁も自分たちの好みに少し変えよう、など。そんなふうに、これからも家を大事に育てていきたいですね。

家を建てて十周年になるんですよ。だから家のお祝いをしようと思っています。お祝いしなかつたら、家もスネるかもしれないでしょ（笑）。十年住まわせてもらつたから、お礼も兼ねて。子どもたちの思い出にもなるし、それで、「我が家はこんなことをする家だった」と自慢してもらいたい。「何、その家庭のルール、面白い！」って言われたら楽しいと思うんです。

インタビュー動画は住宅金融支援機構（JHF）
YouTube公式チャンネルでご覧いただけます
https://www.youtube.com/playlist?list=PLcbOj07XtnfKA4_r_69-mElwHrGxjyKXi

